



## 第32回例会報告(2月25日)

## 【出席報告】

・会員数	52名	・出席数	37名	・欠席数	15名
・当日出席率	83.33%	・前々回修正出席率	100%		
<欠席会員> 青野、平尾、檜垣(巧)、飯、松木、西本、竹田					
〔免除会員〕 青野、原田、門田、松本、宮本、村上、坂本、八木					
<欠席補填> (1/25今治北)原(竜) (1/26今治南)檜垣(俊)、檜垣(巧)、伊藤、菅、金森、川上、吉良、小堀					
近藤(正)、久米、松木、松田、村上(修)、西信、越智(務)、白石、瀧幸、矢野、横井、吉武					
(2/8今治北)平井、竹田					

幹事報告・今治3RC合同水源の森造成事業、75周年記念事業のご案内：2月28日(日)今治市玉川龍岡上、市有林内にケヤキの植栽をいたします。8:30会議所前集合、11時解散予定です。また、午後より今治市西部丘陵公園に桜の植樹をいたします。13時現地集合、14時解散予定です。参加される皆様はよろしくお願ひいたします。

## ロータリー創立記念例会 渡邊道信会長卓話

本日はロータリー創立記念例会ですので、ロータリーの歴史をお話させていただきます。1905年2月23日木曜日の夜、シカゴ市ディアボーン街にあるガスターバス・ロアの事務所にて、弁護士ポール・ハリス、石炭商シルベスター・シール、鋳山技師ガスターバス・ロア、洋服生地商ハイラム・ショーレーの4名で、ロータリークラブ創立のための最初の会合が開かれました。ロータリーは殺伐とした大都会の中で、お互いに胸襟を開いて、どんなことでも語り合える真の友人をつくるため、同業者排除による一人一業種制度と定期的な例会を開催すると定められました。3回目はシールの石炭置き場で開催され、ポールの指名で初代会長にシルベスター・シールが就任しました。この会合で会の名称をロータリークラブと決め、会員身分や役職も一年限りでローテーションすることが決められました。



1906年に制定されたシカゴ・クラブ定款は「親睦を深める」と記載されておりますが、1912年のダールズ大会以降は、「奉仕の機会を広げるための知り合いを作る」と改正され今日に至っております。純粹親睦を深める場合は、親睦活動ではなく例会です。例会こそが良好な人間関係を発展させ、リーダーシップを開発し、倫理観を育成して個人的な成長と発展を図る生涯教育の場なのです。当初の会員同士の物質的相互扶助は、内外から批判を浴びて、精神的相互扶助へと転換し、やがて職業奉仕へと進化して行きます。全く新しい理念である職業奉仕という考え方を導入したのは、1910年8月シカゴで開かれた大会で奉仕哲学に関するスピーチを行ったアーサー・フレデリック・シェルドンです。20世紀の事業人を成功に導く方法は、利益を他人とシェアするというサービス学を尊守することと説き、その理念を端的に「自分の事業に関係する人たちに、最も奉仕した人が最も多く報いられる」と述べています。報酬を受けるために仕事をしているのではなく、職業を通じて社会に奉仕したから報酬を受けているのです。1907年ポール・ハリスは会長に就任すると、活動方針を大きく転換し、会員増強と他都市での新クラブ設立と地域社会への奉仕活動を提案、全米に推進して行きます。1950年デトロイト大会で次の二つの言葉が採択されました。その一つは、職業奉仕の理念であり「最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」。もう一つは、利己の心を超越して他人のために尽くすという弱者に涙する人道的奉仕活動である社会奉仕や国際奉仕の理念であり、「超我の奉仕」です。日本のロータリー運動をもたらすきっかけを作ったのは福島喜三次です。1915年頃米国ダラスクラブに入会します。1918年に渡米した米山梅吉はそこで福島と出会い、ロータリーに関する話を聞き関心を寄せます。1920年に帰国した福島は米山と共にクラブ創設に奔走し、1920年10月20日チャーターメンバー24名が集まって創立総会が開催され、東京クラブが誕生しました。正式に認可されたのは1921年4月1日(登録番号852)です。初代会長に米山梅吉、幹事に福島喜三次が就任しました。

<ゲスト> 讃岐RC 蓮井義則様 <歯科医>

## 次回例会(3月4日)

## 【クラブ奉仕委員会アワー】

<夫人誕生祝> 瀧幸 勝也氏(3/5) 尾越 優氏(3/7) 光藤 廣司氏(3/8)  
 <結婚記念祝> 近藤 正人氏(3/4) 飯 忠悟氏(3/5)  
 <入会記念祝> 近藤 正人氏(3/9)

{ 建寿司 }